

グローバルファンド日本委員会議員 (FGFJ) タスクフォース・ベトナム視察団来訪
(2023年9月8日)

本プロジェクトは HIV/AIDS 治療・予防に関する共同研究を軸にした技術協力ですが、ベトナムにおけるエイズ対策は日本のみならず、これまでも多くのドナー、ファンドがその撲滅に向けた努力を行っております。その中でも世界三大感染症（エイズ・結核・マラリア）を中心に取り組む官民連携パートナーシップであるグローバルファンドは最も大きな役割を果たしている機関の一つです。

日越外交樹立 50 周年を迎える中、グローバルファンドの活動を日本から支える [FGFJ](#) の国会議員メンバーの皆様が、グローバルファンドや日本の協力の現状把握・状況確認を目的としてベトナムに視察されました。視察の中で、9月8日には本プロジェクトのカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）、ハノイ医科大学（HNU）を訪問しました。両機関とも JICA・グローバルファンドを含む様々な二国間・多国間ドナーとの協力を行っており、協力の効率性や特に現場における効果的なインパクトの大きさという側面から、各協力がどう協働しているかという視点が大事です。



NHTD 検査室で、JICA プロジェクトにより供与された機材がどう使われているかについて視察



グローバルファンド日本委員会タスクフォース視察団、NHTD、日本大使館、JICA プロジェクト関係者など皆で記念撮影

NHTD 訪問では、冒頭日越双方からの挨拶、ベトナム側（NHTD・Dr. Giang）の病院紹介後、国立国際医療研究センター（NCGM）・エイズ治療・研究センター（ACC）の田沼医療情報室長から本プロジェクトの活動内容とグローバルファンドとの連携について説明しました。特に、グローバルファンドが多く提供する抗レトロウイルス（ARV）薬が適切に飲まれているか確認するためのウイルス量検査、薬に対する耐性の有無や耐性の原因を探る薬剤耐性検査を本プロジェクトが行っており、協働が継続したエイズの治療や治療の効果発現の担保に繋がっていることを関係者で再認識しました。また、実際にラボの視察を通じ、これまでの協力で整備された機材の活用状況等、様々な意見交換がされました。



NGCM・ACC の田沼先生は、日本の現状なども踏まえてプロジェクト活動を説明



クリニックで実際に薬を手に取り、熱心に話に耳を傾けている議員の方々の様子

HMU 訪問では、同大学が実施するエイズ対策に関する説明がされ、本プロジェクトも協力している [PrEP（曝露前予防内服）](#) の実地現場である Sexual Health Promotion クリニックを訪問しました。性交渉前から継続的に薬を内服し、HIV 感染のリスクを減らすエイズの予防方法である PrEP は、世界的に予防効果が期待されており、ベトナムではコミュニティー団体なども巻き込み先進的に取り組んでいることを確認しました。PrEP の効果検証が本プロジェクトの一つの成果である中、日本にとっても学ぶべきところがあると考えさせられる訪問となりました。

半日で NHTD、HMU を回る過密日程ではありましたが、質疑応答では議員の方々から沢山の質問を頂き、FGFJ 議員タスクフォースの皆様の熱心さをベトナム側関係者も強く感じる訪問でした。活動や成果に関心を持ってもらえることはプロジェクト・カウンターパート双方にとって非常に有難いことで、日越パートナーシップの強化にこれからも貢献すべく、今年度での終了に向けプロジェクトの各活動に引き続き取り組んでいきます。

（写真提供：（公財）日本国際交流センター）